

東京訪問看護ステーション協議会では、2015年10月24日の土曜日に災害イベントを開催しました。

当協議会では、東日本大震災をきっかけに災害プロジェクトチーム（後に災害委員会）を結成し、震災が起きたときでも、各ステーションが冷静に対処できるための取り組みを行なってきました。そのひとつの成果は「安全確認マニュアル」の作成であり、すでに多くのステーションで活用されています。

ネットワークづくりと

災害対策の継続的活動のために

今回のイベントは、災害委員会が安全確認マニュアルを作成していくなかで、災害時に地域のステーションのネットワークづくりや、災害対策の啓発や普及活動がつねに必要なという考えから実施しました。

シンポジウムでは、実際に被災された岩手県宮古市のメディケアステーション所長のガルシア小織さんに、所長としてとった具体的な行動と、そこから得られた課題についてお話しいただきました。

また災害支援ナースとして活動する「和心」の黒澤和子さんからは、災害時に看護師に求められることとして、「つねに考える看護を看護の原点である」とうえで行動していくことと話ができました。

さらに、支援活動に参加した訪問看護ステーションコスモスの武笠亜企子さんからは、他人に話すことのできない被災者の心の声に耳を傾け、被災者がしっか

り自分の足で歩き出せるようにすることが支援であると認識したというお話がありました。

会場からは、看護師は災害などがあると、すぐに被災地に支援に向かうとする職種だが、ふだんから自分たちの地域における災害対策を行なうことがまず重要だという意見もあり、それぞれの立場から貴重なお話を聞くことができました。

災害対策 イベントを開催

東京訪問看護ステーション協議会災害委員会
訪問看護ステーションけせら
阿部智子

災害時の工夫と対応をアイデアで

展示会場には、災害時の生活の工夫・医療対応の方法を学ぼうと、防災食や補水液、発電機と防災用品などの展示や医療機器の紹介ブースを設けました。また、災害委員会では、段ボールトイレや、手づくりの吸引器、コップ、スプーンなどの展示、委員が調理した栄養剤の試飲など、物品がないときのアイデアを紹介するコーナーをつくりました。

今回のイベントには約100名の参加があり、訪問看護師のほか、地域の保健師なども1割ほどおり、とても盛況でした。アンケートの結果からは実際に被災したときの声や支援の実感を聞くことができたこと、展示コーナーも災害時の対応についてのイメージができたことなど、「参加してよかった」という声が多く寄せ

られました。災害対策は何かをやっただけで終わるものではありません。つねに考え、啓発していくべきと考えています。今後も、われわれの地域で想定される災害の特徴について知り、地域のステーションが協力し合える方策やネットワークのあり方について考え学んでいきたいと思っています。



災害委員会メンバー（後列中央が筆者）。



阿部智子（あべともこ）

訪問看護ステーションけせら

〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-1 倉田ビル101